

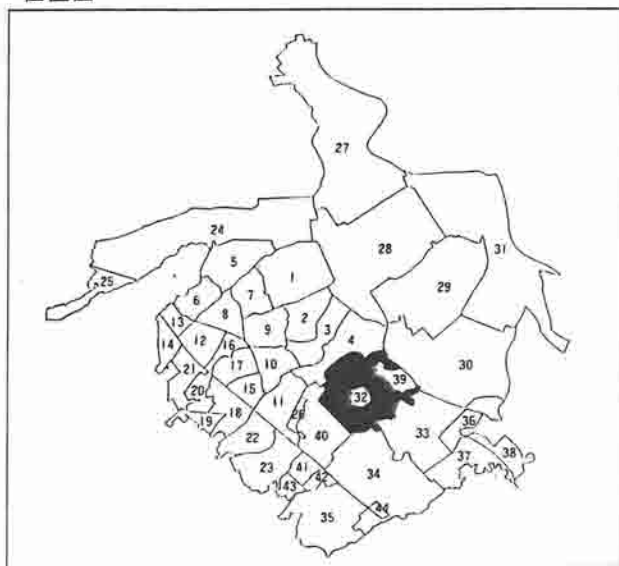
富士見市防災環境カルテ
水谷第1町会

位置番号 32

・概況

水谷第1町会は、富士見市の中央部に位置し、北側は新河岸川に面した水田地帯(氾濫平野)から北東へ広がる低地(谷底平野)、浸食斜面(低位段丘)、緩い斜面[段丘崖(緩)]、急斜面[段丘崖(急)]と複雑な台地端を示す台地で形成されている。水田地帯には、盛土して建設された本郷中学校、ほんごう幼稚園があり、低地の末端(大字水子字東桜井付近)は盛土されて宅地化が進んでいる。南西側は、水谷第8町会に隣接し、住宅の密集化が進んでいる。台地の東側に水子貝塚(国指定)、北側に氷川神社がある。環境は武蔵野台地上の住宅地と水田、畑とが調和した良好な地域である。公共施設は、台地の西側に水谷第1集会所、中央に水谷浄水場がある。水害は、水害履歴から台風に伴う大雨により富士見江川沿いの住宅や水田(大字水子字山崎前、宇西桜井付近)が灌漑水路の溢水のため冠水する内水災害が予想される。地震災害は、低地の木造家屋密集地域で火災が発生した場合、延焼の危険性がやや高いと予想される。関東大地震(1923)では氷川神社付近で家屋4戸が全壊している。

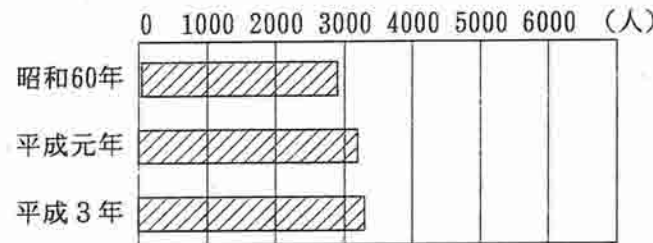
・位置図



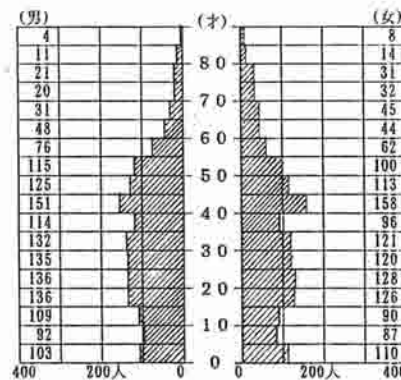
1. 基礎指標

・面積	0,791 km ²
・人口(平成3年10月1日現在)	男 1,731人 女 1,652人 計 3,383人
・人口密度	4,276.9人/km ²
・寝たきり老人数	10人
・ひとり暮らし老人数	10人
・世帯数	1,066世帯

・人口推移

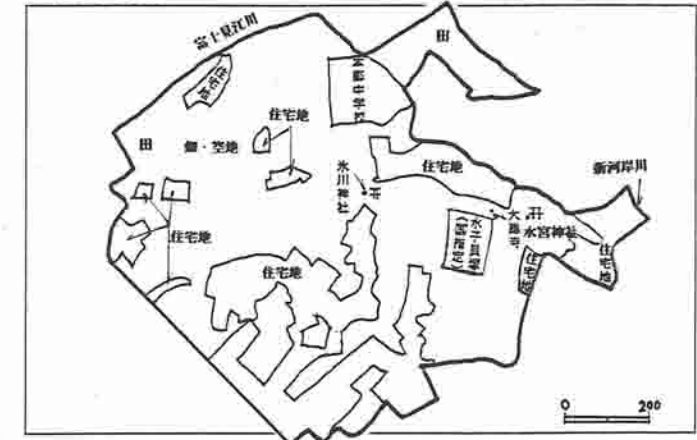


・年齢別人口(平成3年)



・商住工混在率住居系	93.4%
・店舗系	1.8%
・工業系	4.8%

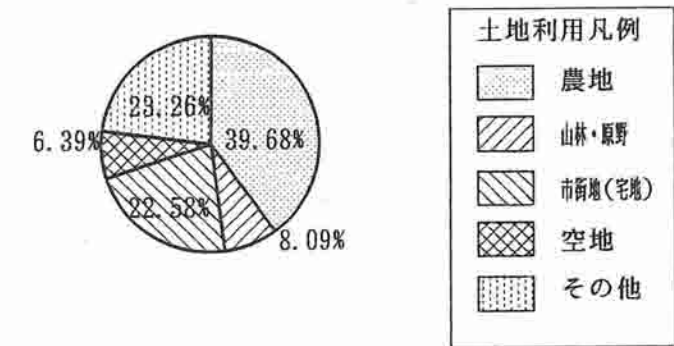
・町会現況図



・用途地域図



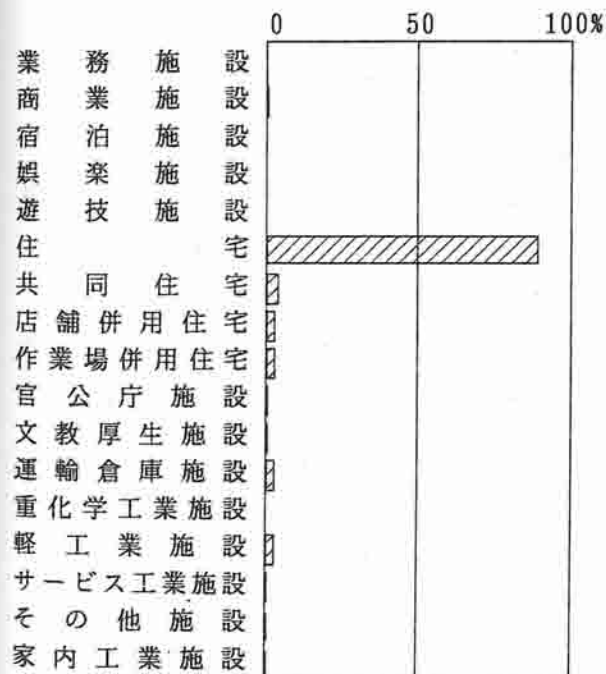
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	1,003棟	
・木造建物	879棟	
・非木造建物	124棟	
・建物面積	46,465.10㎡	
・木造建物	39,818.70㎡	
・非木造建物	6,646.40㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	88.7%	
・木造率	87.6% (879棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	71棟	
・同上率	8.0%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	278棟	31.6%
2階以上	601棟	63.4%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	74本	93.6本/㎢
・幹線道路率	6本	7.6本/㎢
・公共空地面積	32,599.9㎡	
・公共空地率	4.1%	
・1人あたり公共空地	9.6㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 本郷中学校*	21,191.0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 大応寺*	11,408.9㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	29本
・1消火栓あたり世帯数	36.8世帯/本
・消防水利貯水施設数	12 (1) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	富士見市消防団第7分団

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和51年 9月(氾濫17時)	16棟	0棟	か所
平成元年 8月(大雨)	10棟	0棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年) 0件			
・火災出火件数 (年 ~ 年) 0件			
・1923関東大地震被害			
家屋全壊	4戸		
家屋半壊	0戸		
被害率	0.2%		

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

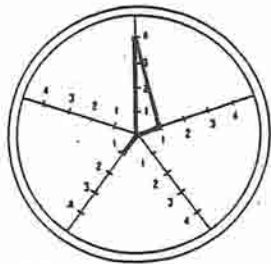
・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	0ランク
・木造建物延焼危険度	1ランク

地盤危険度	地震動危険度	液状化危険度	浅い谷 3	1ランク
危険度	危険度	危険度	" 2	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

※ 想定震度 台地5(+) (強震(強))
浅い谷6(+) (烈震(強))

9. 地盤条件

地盤は、台地で硬く、水田地帯（大字水子字山崎前の一部、字新田下、字本郷橋、字鶉町）で軟弱、低地（大字水子字山崎前の一部、字西桜井）で軟らかく、まだ、浸食斜面を含む低位段丘（大字水子字本郷）で比較的軟らかい。台地部で震度5(+)（強震の強い方）、水田地帯、低地で震度6(+)（烈震の強い方）の地震が予想される。

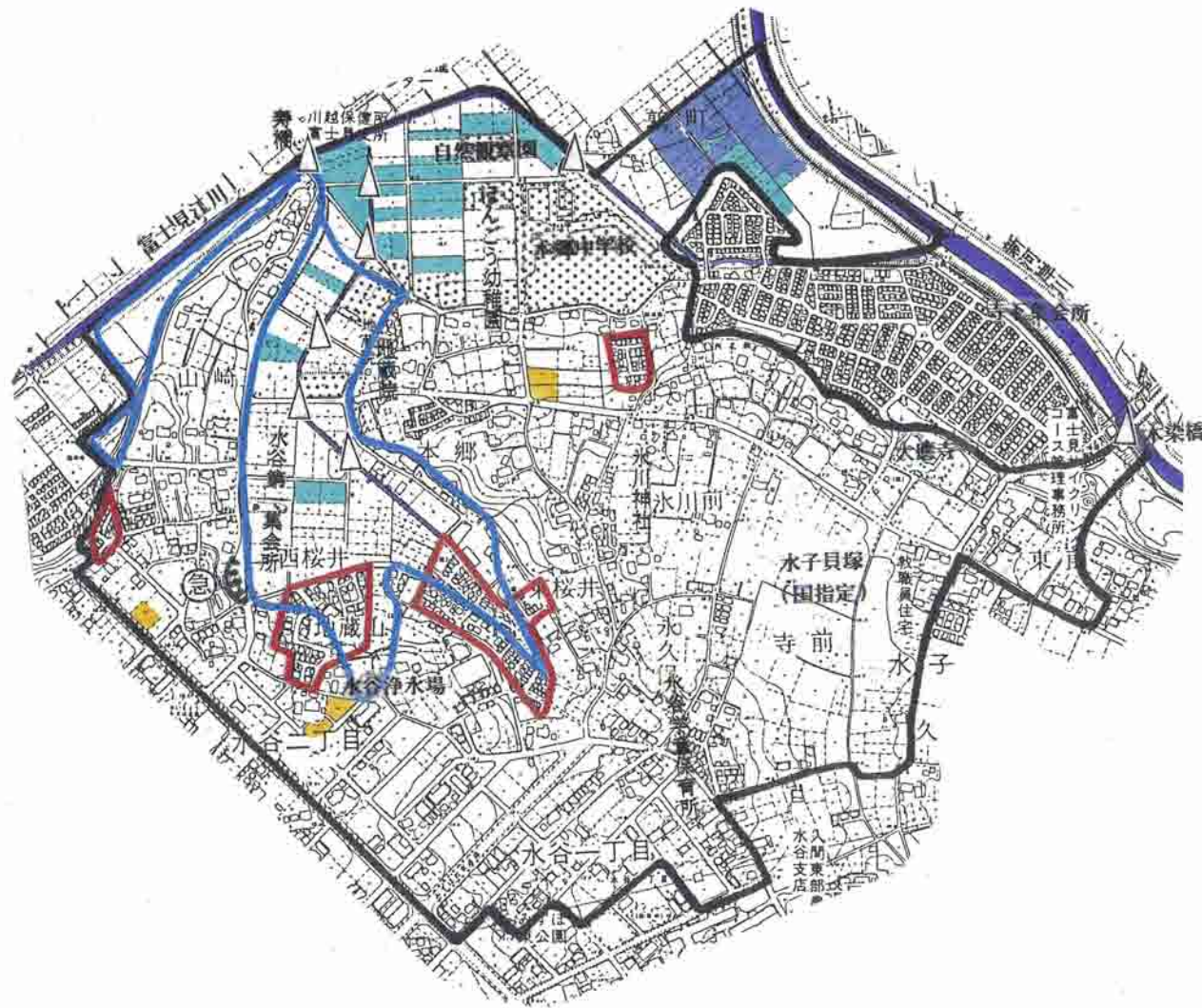
10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	富士見江川沿いの水田にある灌漑用水路からの溢水。	1. 水防能力	水防施設は無い。
2. 外水災害	低い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	水田地帯の木造建物の倒壊の危険性がやや高く、台地の木造建物の危険性は低いと予想される。	3. 消防能力	消火栓や消防水利貯水施設が多く、消防能力は十分と思われる。
4. 出火危険	出火の危険性は低いと予想される。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は、70%以上と見込まれるため延焼の危険性は低いと予想される。	5. 避難収容力	町会内の地震火災の危険性は低いと予想されるので、収容力は十分と思われる。ただし、水谷第7町会内では地震火災の危険性が高いと予想されるため、水谷第7町会の避難者と共用した場合、収容力は、十分とはいえない。
6. その他の災害	無い。 関東地震（1923）で氷川神社付近の家屋が4戸全壊している。		

11. 解決の方向性

灌漑用水路の溢水の要因は、台風に伴う大雨による富士見江川の増水と、新河岸川への排出流量（排水能力）に問題がある。したがって、富士見江川の改修工事の進捗状況を踏まえて、新河岸川への排水ポンプの整備及び灌漑用水路の改修、排水ポンプの増設などの処置をすることが望ましい。
避難可能な道路は、主に幹線道路を使用する。したがって、幹線道路へ出るための住宅地の生活道路は、災害時の事前評価を踏まえて、狭隘化予防対策の指導を行う事が望ましい。

防災現況図A(災害発生要因)



凡 例

●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
□	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)

■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河 川 ・ 水 面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

